

令和 3 年度認知症施策について

1、平塚市の認知症支援事業

昨年 3 月に策定された「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第 8 期〕）」において、「認知機能検査の実施」と「チームオレンジの体制整備」を重点事業として掲げています。本市の認知症施策を推進していくにあたり「住み慣れた地域で安心のある生活」を目指して、以下の認知症支援事業を令和 3 年度に実施いたしました。

（1）認知症理解のための普及・啓発

・市民への普及啓発・本人発信の支援

認知症に対する理解促進と認知症御本人からの情報発信の支援として、レビー小体型認知症と診断された御本人が、朝、目覚めの時に見えた幻視を線画で描きためている数々の作品を展示しました。

また幻視・原画展の開催にあわせて、御本人と一般社団法人日本認知症ケア学会の理事長でもある東京慈恵会医科大学教授の繁田雅弘医師による対談形式による特別講演会を開催しました。

①幻視・原画展（平塚市美術館）：6 月 1 日（火）から 6 月 6 日（日）まで

来場者約 800 人

②特別講演会（平塚市教育会館）：6 月 5 日（土）40 人定員予約制

参加者 40 人



①幻視・原画展の様子



②特別講演会の様子

・アルツハイマー月間啓発事業 第 5 回「みんなで知ろう！認知症」

9 月の世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症について広く市民に知ってもらうための普及啓発活動を実施しました。

①パネル展示（市役所）：9 月 27 日（月）～10 月 1 日（金）

②平塚駅南口噴水ライトアップ（駅南口広場）：9 月 16 日（木）～9 月 30 日（木）

③普及啓発街頭キャンペーン（駅北口）：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

④湘南ベルマーレホームゲームイベント参加による普及啓発：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

⑤認知症関連の本の紹介展示（平塚市中央図書館）：9 月 7 日（火）～9 月 14 日（火）



①パネル展示の様子



②噴水ライトアップの様子

・認知症について広く市民に知ってもらうためのパネル展示

令和4年3月8日（火）～21日（月・祝）に平塚市中央図書館1階ロビーにて開催

・認知症サポーター養成講座

認知症の人やその家族の応援者である認知症サポーターを養成し、認知症への理解の普及促進を行い、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

認知症サポーター養成講座は地域住民や教員、児童や生徒などを対象に公民館や学校等で開催しています。

令和4年1月末現在 開催数：55回 受講者数：1,314人
（受講者内訳）

一般の市民の方：213人 小・中学校や学童、専門学校の学生：916人

企業等の従業員、従事者：103人（6企業・事業所に対して実施）

行政職員：82人

認知症サポーターの延べ人数：25,418人

・チームオレンジ研修

市内13か所のよろず相談センターが主体となり、認知症サポーター養成講座修了者に対して「認知症の人ができるかぎり住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」の担い手であるチームオレンジメンバーを養成する研修を行っています。チームオレンジ研修修了者にはチームオレンジメンバーとして、認知症カフェの立ち上げや運営の手伝い、福祉村などの地域の団体でボランティア活動をお願いしています。

令和4年1月末現在 チームオレンジ研修開催数：7回 受講者：39人

・VR認知症体験会

チームオレンジメンバーを対象に、認知症への偏見をなくし、認知症を自分事としてとらえ、認知症の人や家族への接し方や寄り添い方について考えて、普段の活動に生かしていただくことを目的にヴァーチャルリアリティにて認知症の諸症状を体験します。

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言等の影響で度重なる開催の延期となり、令和4年3月9日（水）午後及び3月18日（金）午前・午後の3回開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の延長に伴い、中止となりました。



(2) 認知症予防施策の充実

・脳とからだの体操リーダー養成講座

認知症予防をめざした運動プログラム「コグニサイズ」を実際に体験しながら学び、お住まいの地域で広めていただく方を養成します。「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した体操で、息が上がるくらいの歩行や足踏みに、脳を刺激する課題（計算やしりとりなど）を一緒に行うものです。

講座実施回数：6回（1クール3日間の講座） 受講者数：22人

・脳いきいき講座

認知機能低下予防に効果的と言われている「コグニサイズ」の習慣化を目的とした3か月間、全12回の講座です。

（株式会社神奈中スポーツデザインに委託）

感染症対策を行い、利用定員を最大10名と制限して開催しています。

令和3年度の受講者数：15人（前期7人、後期8人）



・認知症予防教室

認知症に関する正しい知識と認知症になるリスクを減らした生活スタイルを学び、認知症になっても安心して生活ができるように認知症に対する対応策を学ぶ教室。

感染症対策として、会場を屋外に変更し、活動を継続できるよう工夫している地域もある。

令和4年1月末現在 よろず相談センター主催（市広報）：9回、参加者数：154人
8・9月は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

地域から依頼の教室：79回、参加者数：946人



(3) 認知症に対する早期対応体制の整備

・若年性認知症を含めた相談支援

令和3年度は令和4年1月末現在までに市内の各よろず相談センターで受けた認知症に関する相談は総数で4,126件。1つのよろず相談センターで1月あたり約32件の相談を受けていることになります。(継続相談を含む延べ件数)

・認知症初期集中支援事業

認知症初期集中支援チームは平成29年4月に設置され、原則として40歳以上の在宅の認知症の人又は認知症が疑われる人及びその家族に対して、必要に応じて訪問や相談、指導、助言を行い、適切な機関へのつなぎや情報収集及び観察・評価、継続的なモニタリング等を行います。

(医療法人社団みのり会 湘南いなほクリニックに委託。)

令和3年度は令和4年1月末現在で13のよろず相談センター全体で16件の相談があり、うち11件を認知症初期集中支援事業の対象者と選定いたしました。また、令和3年度(令和4年1月末)までに終了したのは10件になります。(令和2年度から継続ケース8件、令和3年度のケース2件)

コロナ禍における感染防止対策として、チーム員である湘南いなほクリニックの御協力で、2月の支援対象者選定会議はZoomを活用し開催しました。

・「物忘れ相談プログラム」による簡易認知機能検査

日本認知症予防学会も会員対象にレンタルを行っている、鳥取大学医学部の浦上克哉教授が開発した「物忘れ相談プログラム」を実装した簡易認知機能検査機器(タブレット端末)を13全てのよろず相談センターに各1台導入し、認知症地域支援推進員等のよろず相談センター職員が訪問相談や、地域のサロンや福祉村などで周知を行い、予約制で検査を実施しました。

検査結果により、脳いきいき講座への参加や医療機関への受診勧奨、サロンへの参加を促しました。

令和4年1月末現在の検査実施人数：551人



(4) 認知症高齢者の見守り支援

・チームオレンジの体制整備

チームオレンジメンバーによる見守りを始めとした認知症の人や家族に対する生活面の支援を行う体制づくり、また、認知症の人やご家族もメンバーとして参加してもらえるよう体制づくりをすすめていきます。

令和4年1月末現在の活動内容： 認知症カフェや地域サロン開催時の見守り・話し相手
地域サロンの送迎、認知症カフェやサロンの運営協力、
コロナ禍で活動中止中の参加者へのお手紙支援等

・認知症カフェ登録事業

認知症の人やその家族と地域の方が住み慣れた地域で、仲間づくりや生きがい支援、専門家等と相互に情報交換し、安心して集える居場所として広く市民に周知を行います。

登録認知症カフェ：9カ所

・認知症カフェ登録団体交流会

運営団体各々でやり方等工夫して開催していただいている認知症カフェについて、運営団体同士の交流の場を設け、困っている事や課題の解決につながるような情報交換を行うことで、より良いカフェの開催につなげていただく。また今後の活動の広がりにも期待できるため、団体同士のつながりができることを目的として開催しています。

12月2日（木）開催

アドバイザーとして各地域の認知症カフェについて情報発信されているフォトグラファーのコスガ聡一氏を招聘しました。

(5) その他、感染症対策に関する認知症施策の取組み

・織り姫と一緒にやってみよう！ちょい脳トレ体操のDVD配布

令和3年1月19日から動画配信をしている脳トレ体操をDVD化し、脳とからだの体操リーダーや認知症カフェ団体等、配布を希望する地域活動団体へ配布しました。

配信内容：織り姫とやってみよう！！ちょい脳トレ

- ①指折り体操編
- ②手と足を同時に動かす体操編
- ③色文字編



市が作成したDVD

2、課題と対応策

来年度に向けて考える課題と対応策は以下のとおりです。

(課題)

昨年度と今年度の認知症相談件数（ともに1月末現在）を比較すると、今年度は昨年度の1.5倍以上の件数となっています。

令和元年度末から長期にわたるコロナ禍による活動の自粛で、高齢者の社会参加の機会の減少が2年以上続いています。市内には認知症の方が※約7,000人程度いると推計されていますが、活動量の低下とともに認知機能の低下について不安に思っている人を含めると、さらに人数が増えていると思われます。こうした認知機能の低下が疑われる人や不安に思っている人を、いかにして早期に発見して適切な相談・支援につなげていくかが課題となっています。

※市内の要介護者等のうち、認知症高齢者自立度が軽度以上の人数（令和3年4月1日現在）。

(対応策)

すべての高齢者よろず相談センターに導入している簡易認知機能検査機器を積極的に活用して、認知機能の低下や認知症の早期発見、早期対応に努め、受診勧奨や社会参加の場等、個々に必要な情報を提供するなどして本人及び家族への支援を行い、「認知症になるのを遅らせる」また「認知症になっても進行を緩やかにする」とともに「認知症になっても尊厳と希望を持って住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる」まちづくりにつなげていきます。